

公 民 [倫 理] (100 点 50 分)

2016年12月6日(火) 1限 実施
後期②考査
千葉県立長生高等学校 第3学年 全組
Edited by K.Kataoka

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 解答用紙はマークシート式です。
- 3 受験番号はアルファベットを数字に直し、次の例のように5桁で記入してマークを忘れないこと。
例 3年D組1番 → 30401
- 4 試験中に解答用紙の不足、問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 5 試験終了後、問題冊子は持ち帰って復習をするとともに、答案返却の際に持参すること。
- 6 センター過去問演習参加者は明日までにマークシートを社会科研究室前のボックスに提出のこと。

倫 理

(解答番号 [1] ~ [50])

第1問 次の文章を読み下の問い(問1~問8)に答えよ。(配点 20)

中国の思想は、古代封建国家の周が崩壊し、春秋・戦国時代になると多様に花開く。特に仁と礼を説く儒家と無為自然を説く道家の思想は、現代にいたるまでの中国社会の思想伝統を形成すると同時に、日本や東アジアの思想形成にも大きな影響を与えている。

[1] を滅ぼした周王朝は、王(天子)の下に血族を諸侯として封じ、土地を世襲させる (a)封建制度を確立した。しかし春秋時代の末期にいたり、その封建制度が崩壊し始めると、諸侯はそれぞれ富国強兵に努め、国の秩序安定をはかるために、広く思想家や政治家を世にもとめた。これに呼応してあらわれたさまざまな思想家たちを総称して (b)諸子百家という。仁と礼によって秩序を説く儒家の思想やそれを人為的としりぞけ自然にしたがおうとした道家の思想は、今日にいたるまで、大きな影響力をもっているが、その他 [2] 主義をとなえた (c)韓非子らの法家、人々を差別なく広く平等に愛すべきだと [3] 説や非攻説をとなえた(d)墨子らの墨家、さらには戦略を説く (e)兵家や論理主義的な (f)名家など、それぞれ多彩な思想活動を展開した。

問1 文章中の空欄 [1] ~ [3] に入る最も適当な語を、次のそれぞれの①~④のうちから一つずつ選べ。

[1] [① 秦 ② 殷
③ 夏 ④ 魏

[2] [① 法治 ② 王道
③ 礼治 ④ 徳治

[3] [① 交利 ② 仁愛
③ 別愛 ④ 兼愛

問2 下線部(a)に関して、周の封建制の基盤となる礼楽を整えた人物として最も適当なものを、次の①~④のうちから一つ選べ。[4]

① 堯 ② 舜 ③ 禹 ④ 周公

問3 下線部(b)に関して、諸子百家の一つ、農家の思想家として最も適当なものを、次の①~④のうちから一つ選べ。[5]

① 商鞅 ② 蘇秦 ③ 許行 ④ 鄒衍

問4 下線部(c) に関して、次の『韓非子』の守株の文中の空欄 [6] に入る語として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

宋人有耕田者。田中有株。

(宋人に田を耕やす者有り。田中に株(くひぜ)有り。)

兔走触株、折頸而死。

(兔走りて株に触れ、頸を折りて死す。)

因积其耒而守株、冀復得兔。

(因よりて其の耒を积てて株を守り、復た兔を得んことを冀ふ。)

兔不可復得、而身為宋国笑。

(兔復た得べからずして、身は宋国の笑ひと為る。)

今欲以 [6] 之政、治当世之民、皆守株之類也。

(今 [6] の政を以つて当世の民を治めんと欲するは、皆株を守るの類なり。)

- ① 先王 ② 霸道 ③ 律令 ④ 無為

問5 下線部(d) に関して、墨家の思想をあらわす言葉として**適当でないもの**を①～④のうちから一つ選べ。[7]

- ① 非樂 ② 節葬 ③ 必罰 ④ 非攻

問6 下線部(e)に関して、兵家の思想家として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[8]

- ① 孫子 ② 公孫龍 ③ 張儀 ④ 伏羲

問7 下線部(f)に関して、名家についての説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[9]

- ① 道徳よりも法律による支配を重んじる政治を帝王の道とする
② 名(名辞・概念)と実(事物・実体)との概念分析をおこなった論理学派
③ 従(たて)(南北系)と衡(よこ)(東西系)の国際同盟を唱える外交策
④ 諸家の説を総合、勘案した学説、学派。また、どの学派にも属さない群小学派

問8 陰陽五行説についての説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[10]

- ① 陰陽とは月と太陽のことであり、太陽の力が宇宙を支配していることをあらわす。
② 陰陽は相反する性質を持った気で、それぞれ独立し固定的で変化することはない。
③ 五行相生とは、木火土金水の五行が生成する様子をあらわすものである。
④ 五行とは5つの惑星のことで、一週間の労働すべき日をあらわしている。

第2問 次の文章を読み下の問い(問1～問6)に答えよ。(配点 20)

孔子は、社会秩序を実現するには、「これを導くに政を以てし、これを斉うるに刑を以てすれば、民免れて恥なし。これを導くに〔 11 〕を以てし、これを斉うるに礼を以てすれば、恥ありて且つ格し」と考えた。為政者みずからが、まず道徳的体現者である〔 12 〕たることを目指し己を修め、その感化によってこそ人を治めること(修己治人)ができると考えたのである。

また『論語』に「怪力乱神(怪しげな力や神秘)を語らず」とあるように、孔子は神秘的なものに積極的な関心をもたなかった。また「いまだ生を知らず、いづくんぞ〔 13 〕を知らんや」と、あえて〔 13 〕の問題を語ろうとしなかった。もっぱら孔子の関心は「朝に道を聞かば、夕に〔 13 〕すとも可なり」とまでいった道にあった。もっとも彼は、富貴や名誉を望むこと自体を否定しようとはしなかった。孔子はただ、それらの欲望を正しい道によらないでもとめることを否定したのである。

孔子はこの道を、心のもち方としての仁と、形としての〔 14 〕の二つの側面からとりあげている。心のもち方としての仁は、孔子自身もさまざまなかたで説き、弟子たちもさまざまに解釈しているが、それはまず何よりも「人を愛すること」である。「〔 15 〕なるものは、それ仁の本なるか」というように、仁は親子・兄弟の間に自然に発する親愛の情として示されるものであり、それをさまざまな人間関係におしひろめていくことであつた。孔子が他人に対する心のもち方として説いたことは、まず自分のわがまま、私利私欲をおさえることであり、(a)人の心を思いやることであつた。それは具体的には、「己の欲せざるところは人に施すことなかれ」であり、「己立たんと欲して人を立て、己達せんと欲して人を達す」、などであつた。そしてさらには、常に自分を欺かず、(b)まごころから人に接して人を欺かないことなどがもとめられた。このような心のもち方は、すべて仁をなす心のもち方であり、人間はいついかなるときでも、心に仁を守るべきであると説いている。

問1 文章中の空欄〔 11 〕～〔 15 〕に入る最も適当な語を、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

- 〔 11 〕

① 法	② 徳
③ 礼	④ 力

- 〔 12 〕

① 真人	② 大丈夫
③ 君子	④ 至人

- 〔 13 〕

① 神	② 死
③ 魂	④ 霊

- 〔 14 〕

① 礼	② 義
③ 信	④ 智

- 〔 15 〕

① 孝悌	② 克己
③ 忠恕	④ 忠信

問2 下線部(a)に関連して、おもいやりを意味する語として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[16]

- ① 恕 ② 忠 ③ 信 ④ 仁

問3 下線部(b)に関連して、まごころを意味する語として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[17]

- ① 恕 ② 忠 ③ 信 ④ 仁

問4 次の論語からの引用文についての説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[18]

顔淵、仁を問う。子曰く、己に克ちて礼に復するを仁と為す。一日己に克ちて礼に復すれば天下仁に帰す。仁を為すは己に由る、而うして人に由らんや。顔淵曰く、請う、その目を問わん。子曰く、礼に非ざれば視ること勿れ、礼に非ざれば聴くこと勿れ、礼に非ざれば言うこと勿れ、礼に非ざれば動くこと勿れ。顔淵曰く、回、不敏と雖も、請う、斯の語を事とせん。

- ① 仁とは己のやりたいことを実行するために礼を行うことである。
② 仁を行うのは自分自身の力によるものであり、他人によるものではない。
③ 礼にかなわないものをしっかり見とどけることが仁の眼目である。
④ 顔淵は孔子の言葉を理解できなかったので、それを謝罪した。

問5 次の論語からの引用の中の間欄 [19] に入る語として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

子曰く、吾十有五にして [19] に志す。三十にして立つ。四十にして惑わず。五十にして天命を知る。六十にして耳順う。七十にして心の欲するところに従いて、矩を踰えず。

- ① 道 ② 学 ③ 徳 ④ 礼

問6 五経についての説明として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[20]

- ① 書経には、堯・舜の世の記録、禹および夏王朝の記録、文王、武王、周公を主人公とする記録などが描かれている。
② 詩経は、中国最古の詩集であり、黄河流域の諸国や王宮で歌われた詩歌 305 首を収めたものである。
③ 易経は、占いのためのテキストで 64 種類の象徴的符号の卦と、そのおのおのに付された短い占断の言葉から成っている。
④ 礼記は、魯の隠公元年（前 722）から哀公 14 年（前 481）に至る 242 年間の国家的大事を略記した年代記である。

第3問 次の文章を読み、下の問い（問1～問6）に答えよ。（配点 18）

孟子は、孔子の仁の教えを継承して、人間は生まれながらにして (a)四端の心が備わっているとして性善説をとらえた。このように、人はだれでも、善をおこなう心をもっているのです、この心を養い育てることによって、人はそれぞれ仁義礼智の四徳を実現できると説いた。後に董仲舒は四徳に [21] を加えて五常と呼んだ。この四徳を備えた者には、(b)浩然の気がみなぎってくるとし、そうした理想的人間像を大丈夫とよんだ。また孟子は、基本的な人間関係のあり方として、(c)五倫の道を示し、それによって社会秩序の回復を目指した。

政治思想としては、[22] にもとづいて真に民衆の幸福をはかる(d)王道の政治を主張した。孟子はこのように、真に民衆を尊重する政治の実現を主張したが、さらに (e)易姓革命の説を認めた。

荀子は、孔子の礼の教えを継承しながらも、性悪説をとらえた。人間は生まれつき利をむさぼり人を憎む傾向がある。だから、自然のままにほうっておくと乱をなすので、規範としての [23] によって人々の性質を矯正しなければならないと説いた。荀子は戦国時代末期、趙の国に生まれた。内乱・戦争の続発する時代に生き、「人の性は悪、その善なるものは [24] なり」と説き、内的な仁よりも外的規範としての [23] の教育を重視した。

問1 文章中の空欄 [21] ～ [24] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

[21] ⎧ ① 忠 ② 孝
 ⎩ ③ 悌 ④ 信

[22] ⎧ ① 孝悌 ② 礼智
 ⎩ ③ 仁義 ④ 忠信

[23] ⎧ ① 道 ② 仁
 ⎩ ③ 法 ④ 礼

[24] ⎧ ① 偽 ② 福
 ⎩ ③ 無 ④ 真

問2 下線部(a)に関して、次の『孟子』からの引用文中の空欄 [25] に入る語として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

人皆、人に忍びざるの心ありと謂う所以の者は、今、人乍に孺子の將に井に入らんとするを見れば、皆怵惕・[25] の心有り。

- ① 辞讓 ② 是非 ③ 惻隱 ④ 羞惡

問3 下線部(b)に関して、次の『孟子』の現代語訳の引用文中の空欄 [26] に入る語として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

「おたずねしますが、浩然の気とはどういうものですか」

「ことばで定義することは困難だ。浩然の気というのは、何ものよりも大きく、どこまでも広がり、何ものよりも強く、ちっともたわみかがむことなく、まっすぐに育ててじゃまをしないと天地のあいだにいっぱいになる。また、この気というのは、[26] と道とから離れることはできない。もし分離すると植えて気は死んでしまう。浩然の気は、[26] を行ったのが積み重なって発生したものであり、[26] が浩然の気を突発的に取り込んだのではないのである。

- ① 仁 ② 智 ③ 義 ④ 礼

問4 下線部(c)に関して、五倫の道の内容として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。[27]

- ① 父子の孝，君臣の義，夫婦の別，長幼の悌，朋友の信
② 父子の孝，君臣の忠，夫婦の礼，長幼の悌，朋友の敬
③ 父子の親，君臣の義，夫婦の別，長幼の序，朋友の信
④ 父子の親，君臣の忠，夫婦の愛，長幼の序，朋友の敬
⑤ 父子の仁，君臣の義，夫婦の礼，長幼の智，朋友の信
⑥ 父子の仁，君臣の忠，夫婦の愛，長幼の智，朋友の敬

問5 下線部(d)に関して、次の王道についての説明文中的空欄 [28] に入る語として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

当時の諸侯は武力によって他国を圧倒し、天下に号令できる覇者になることを求めている。しかしこの武力による征服・支配では民心が離反し、結局は国を滅ぼすとして、孟子はむしろ仁愛によって民心を帰服させる王道こそが天下統治への道であるとした。領土や軍隊の大小よりも、民心の把握いかんが統治の要諦であるとした。孟子のこの議論は、諸侯の欲望を踏まえたうえで仁愛の徳治を説くものであった。この王道を支えるのは功利の念ではなく [28] の心である

- ① 礼智 ② 仁義 ③ 無為 ④ 霸道

問6 下線部(e)に関して、易姓革命の説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[29]

- ① 民を苦しめる統治を行うと天変地異が起きる。
② 民を苦しめる統治を行うと民が革命を起こす。
③ 民意にそむく暴君は天により治者の地位から追放される。
④ 民意にそむく暴君は暗殺されても文句は言えない。

第 4 問 次の文章を読み、下の問い（問 1～問 7）に答えよ。（配点 22）

春秋時代から漢の時代にかけて、儒教の經典が数多く作成された。そのおもなものは、のちに (a)四書・五經として重視された。漢代以降は、五經を主としてこれらの經典を研究する儒学が成立し、經典の理論的統一と体系的な解釈に力がそそがれた。

とくに、唐から宋にかけて仏教が広まると、それに触発され、儒教が哲学的な要素をとり入れるようになっていった。その代表が、[30] 代の朱熹の朱子学と、[31] 代の王陽明の陽明学である。

朱子は、天地万物に内在する宇宙の原理と、万物の元素である運動物質によって世界の構造をとらえた。この考えを [32] 二元論という。朱子によれば、理は、あらゆる事物を成り立たせる根拠であり、したがうべき規範である。天からあたえられた人間の本質もまた理である。(b)人間は本来理と一体のものであるが、しかし現実の人間は、物質的に妨げられた状態にあり、完全な善をなすことができない。そこで彼は、つつしみによって人欲を捨て、万物にやどる理を窮め、宇宙の理と一体化することが理想の道であると説いた。そして、理と一体化した理想の人格を [33] とよび、[33] にいたるための方法論として、四書のうちとくに (c)『大学』の教えを重視した。

朱子がおもに事物の理を窮めることを主張したのに対し、(d)王陽明は、理を人間の心の中に見いだし、(e)生まれながらの心の本体がそのまま天理であると考えた。そして、この心が善悪是非を判断するはたらきのままに生きることが人間の道であると説いた。彼のこの考え方を [34] という。

また彼は、良知は行為によって実現されると考え、実践をきわめて重視した。このことを彼は、(f)「知は行のはじめであり、行は知の完成である」と述べた。

問 1 文章中の空欄 [30]～ [37]に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

- | | | | |
|------|---|--------|--------|
| [30] | [| ① 明 | ② 元 |
| | | ③ 漢 | ④ 宋 |
| [31] | [| ① 明 | ② 元 |
| | | ③ 漢 | ④ 宋 |
| [32] | [| ① 心身 | ② 理氣 |
| | | ③ 主客 | ④ 陰陽 |
| [33] | [| ① 真人 | ② 君子 |
| | | ③ 大丈夫 | ④ 聖人 |
| [34] | [| ① 性即理 | ② 心即理 |
| | | ③ 天人合一 | ④ 居敬窮理 |

問2 下線部(a)の四書として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。[35]

- ① 論語 ② 孟子 ③ 中庸 ④ 孔子

問3 下線部(b)に関して，理と一体となった人間の性を指す語として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。[36]

- ① 理性 ② 人情 ③ 気質の性 ④ 本然の性

問4 下線部(c)に関して，『大学』についての説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。[37]

- ① 聖賢の残した格言や逸話を具体的に説く。
② 格物致知に始まり，齐家，治国，平天下の道を説く。
③ 偏らざる中と，易わらざる庸を説く。
④ 孔子とその弟子たちの言葉と行いを描く。

問5 下線部(d)に関して，王陽明の言行録として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。[38]

- ① 四書集注 ② 近思録 ③ 中庸 ④ 伝習録

問6 下線部(e)に関して，この考え方をあらわす言葉として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。[39]

- ① 致良知 ② 陰陽五行 ③ 性即理 ④ 事上磨錬

問7 下線部(f)に関して，この考え方をあらわす言葉として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。[40]

- ① 知先行後 ② 知行合一 ③ 知後行先 ④ 知徳合一

第5問 次の文章を読み、下の問い（問1～問5）に答えよ。（配点 20）

老子は、万物がそこから成長するもの、万物の存在を成り立たせているものを、仮に名づけて道（タオ）とよんでいる。そして道自体は対象としてとらえられないから、名づけようがないという意味で、[41] でもあるという。万物は [41] から生じて [41] に帰る。この [41] から有、有から [41] への運動は、永遠にくり返され、すべてのものは変転する。したがって人々が福と思ひ禍と思うものも絶対的でなく、福はやがて禍に、禍もやがて福に転ずるものだと説いている。

それゆえ老子は、道徳や文化などは人間が作為した [42] 的なものであると考え、儒家の教える道徳はすべて、世が乱れたためにやむをえず説かれたものであるとしている。そのことを老子は、「大道廢れて [43] 有り」といっているが、われわれに必要なことは、儒教的な徳を説くことではなく、徳のいらぬ社会をつくることであるというのである。ここから老子は自然と調和した生き方を主張するのである。

人生や宇宙をこのようにみる老子にとって、賢明な生き方とは、世俗への執着心を捨て、常に人の下手に出て人と争わず、また、何ごともあるがままに素直に、作為をろうせず自然にしたがって生きることであった。そして、そのように生きられる [44]こそ理想社会であると説いた。

このような老子の考え方をさらに徹底して、心の平安と自由の境地にいたる方法を説いたのが荘子である。荘子は、ありのままの世界は、本来、[45] と考える。そして、功績や名声など自己への執着と分別の心から人間の苦しみが生まれるとし、こうしたことから自由となり、虚心になって天地自然と一体となる [46] の境地に遊び、与えられた寿命をまっとうする人を真人とよんで、賢い生き方の理想とした。

問1 文章中の空欄 [41] ～ [46] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

- [41]

① 玄	② 大
③ 無	④ 一

- [42]

① 人間	② 相對
③ 絶対	④ 宗教

- [43]

① 孝悌	② 孝慈
③ 仁義	④ 忠臣

- [44]

① 柔弱謙下	② 無為自然
③ 桃花源記	④ 小国寡民

- [45]

① 不立文字	② 万物齊同
③ 一切皆空	④ 見性成佛

- [46]

① 三昧	② 自然法爾
③ 逍遙遊	④ 蝸牛角上

問2 次の『老子』の引用文中の空欄 [47] に入る最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

上善は [47] のごとし。[47] はよく万物を利して争わず。衆人の悪むところにおる。故に道に近し。

- ① 無 ② 天 ③ 空 ④ 水

問3 次の『老子』の引用文中の空欄 [48] に入る最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

大国を治むるは [48] を煮るのごとし。(大国をおさめるには、[48] を煮崩さないように無為でいるのがよい)

- ① 大根 ② 豚肉 ③ 人参 ④ ござかな

問4 老子が理想とする君主の姿として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。
[49]

- ① 民が賞賛して親しむ君主
② 民が存在だけしか知らない君主
③ 民に侮られる君主
④ 民に恐れられる君主

問5 次の『莊子』の引用文中の空欄 [50] に入る語として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

ある時、顔回が孔子に「私にも一つの進境がありました」と言った。孔子が「それは何かね」とたずねると、「私は礼樂を忘れることができるようになりました」と告げた。孔子は「わるくはないが、まだたいしたことはないね」と言った。

その後、顔回はまた孔子に会い「私にはまた進境がありました [50] ができるようになったのです」と言った。これを聞いた孔子は思わず顔色を引き締め、「[50] というのは、どういうことかね」とたずねた。

「自分の身体や手足を忘れ去り、目や耳の働きをなくし、形のある肉体を離れ、心の知を捨て去り、あらゆる差別を超えた大道にどうかすること、これが [50] です」

これを聞いて孔子は言った。「道と一体になればもはや好悪の差別の心はなくなるし、変化のままに従うならば、特定のものだけを追い求める心もなくなる。お前はやはりたいした人間であった。私も、お前の教えを乞わねばなるまい」

- ① 瞑想 ② 心齋 ③ 大悟 ④ 坐忘

これで問題は終わりです。